２月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

２０２０年３月２日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
０７５－７２３－４８３５

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度2月6日（木）～2月27日（木）にかけて「東福門院和子　―京と江戸のはざまで―」と題して、４回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０２０年 2月6日・１３日・２０日・２７日
いずれも木曜日１３：３０～１４：００

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ（6日・１３日・２０日）、同小ホール（２７日）

■ 参加者数　　５３名（６日）、５７名（１３日）、５３名（２０日）、４２名（２７日）
合計　２０５名

■ 内　　容
講師　　京都府立京都学・歴彩館　京都学推進課　寺嶋　一根
「東福門院和子　―京と江戸のはざまで―」（全4回）
第１講　和子の生涯～京に嫁ぐ～
第２講　国母として京に生きる
第３講　呉服商雁金屋とファッションリーダー和子
第４講　東福門院の文化活動～宗旦書状を手がかりに～

■ 講座の様子
今月のミニ講座は、江戸幕府２代将軍徳川秀忠の娘として生まれ、後水尾天皇のもとに入内した東福門院和子を取り上げた。
第１講では和子が天皇への入内を前提に育てられたことやその華麗な入内行列などについて、第２講では慣れない公家文化に飛び込んだ和子と皇位継承をめぐる朝幕間の駆け引きの模様を、第３講では和子の注文した呉服が流行の最先端をいくものであり、それらが贈答や下賜を通じて広まったこと、第４講では和歌や香など公家文化に親しむ一方、公家社会への小袖普及、特技としての縫絵、千宗旦の茶を好むなど、晩年にかけての独自の文化活動と交友関係について、分かりやすく紹介した。
最終回はコロナウィルスの感染拡大防止の観点からラウンジから小ホールに場所を変更して実施したが、各回とも多数の参加者を得て、江戸時代初期の京都文化への関心の高さをうかがわせる講座となった。